

## 1. 教育の責任

口腔の健康は全身の健康に影響することから、超高齢化社会において歯科衛生士はますます重要な役割を担っていく。すでに訪問歯科診療や摂食嚥下訓練、オーラルフレイルの予防の口腔保健指導など、歯科衛生士は様々な方面で活躍の場を広げ、同時に全身疾患を持つ患者さんと接する機会も増えている。大手前短期大学における私の教育責任は、患者さんの全身状態を理解できる医学的知識を備えた、高度な医療人としての歯科衛生士を育成することである。

## 2. 教育の理念

歯科衛生士は患者さんに寄り添い、支え、助言することで口腔内環境を患者と共に改善していく職業である。大手前短期大学の「情操豊かな教養ある人格の完成を目指す」創立の精神に基づき、歯科衛生に関する専門的知識に加えて、医療人として必要となる社会的能力を育成することが大事であると考え。これまで歯科麻酔専門医として臨床の現場で得た経験を活かし、患者さんのことを第一に考えることができる医療人材を教育し、社会の発展に貢献し得る人材を輩出することを理念とする。

## 3. 教育の方法

・歯科衛生士に必須である専門的医学知識を身に着けるために、1年次ではまず医学の基礎科目である「解剖学」「口腔解剖学」「組織発生学」の講義を行い、健康な人体の構造について理解する。教科書やスライドを用いた講義形式となるが、高校時代に生物学を選択していなかった学生でも医学用語に慣れることができるよう、毎回の授業で課題問題を行い、反復学習による医学用語の定着を目指す。

・1年次の「フォーラム A、B」では、歯科医師や歯科衛生士のゲストスピーカーによる講義や歯科衛生学科卒業生による体験談を通じて、医療人を目指す心構えをもたせる。また、各学生の個人面談を行い、3年間の学生教育に必要な各学生の性格や特徴を把握する。さらに、図書館で文献を検索し、他の学生の前でパワーポイントを用いてその文献に関する発表を行うことで、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。

・2年次では、1年次で習った基礎科目と臨床科目の架け橋ともなる「薬理学」の授業を行う。講義の中では、高血圧や糖尿病、癌など日常診療で出会う疾患について病態を理解した上で、疾患に対して薬剤がどのように薬理効果を表すのかを理解できるようになることを目指す。毎回の授業で課題問題を行い、反復学習による知識の定着を目指す。

・基礎知識を基に臨床科目である「口腔外科学・歯科麻酔学」について専門的講義を行う。口腔外科で扱う疾患にはどのようなものがあるのか理解し、口腔外科的治療について学ぶ。さらに近年注目されている周術期口腔機能管理の目的について理解することで、臨床に出た際に効果的な口腔ケアが行えるようになることを目標とする。口腔外科疾患については、教科書やスライドで病変を繰り返し示すことで、臨床に出た際に疾患を見分けることができるようになることを目指す。また、バイタルサインの測定法については、実習形式で学び、臨床の現場で即戦力として動けるようになることを目指す。

・2年次の秋学期終了後は、これまでに得た医学的基礎知識、臨床的知識を基に、「基礎実習」「臨床臨地実習1（クリニック実習）」「臨床臨地実習Ⅱ（病院実習）」など学外臨地実習を行い、講義や学内実習で習った知識を臨床の場で活かせるようになることに重きを置く。学外臨地実習の中では、臨床現場で必要なスタッフ間のコミュニケーションについて学ぶと共に、医療人として患者さんの病態を理解し、深く寄り添うことができる歯科衛生士となれるよう、登校日の面談やオリエンテーションを行って指導する。

授業実践の工夫：講義科目では教科書に沿った内容のPowerPointを作成し、理解しやすいように伝える工夫をしている。また、授業スライドの内容をまとめて配布資料としている。

## ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前短期大学 所属：歯科衛生学科 名前：河野 彰代 作成日：2024年12月26日

・「解剖学」「口腔解剖学」では、教科書などの2次元の資料では理解しづらい解剖学的構造については、顎模型や頭蓋骨の模型を教材提示することで3次元的な理解ができるように工夫した。

・「薬理学」では実際の薬を見てもらうことで薬剤の形状などを印象づけるように工夫した。

・「口腔外科学」では実際に生体モニターを学生同士で装着する実習形式も行った。臨地実習に出る前に、モニター装着の練習をすることで、実習先での患者対応に余裕を持って臨めるように工夫した。

全ての講義科目で毎回の講義ごとに課題を設定し、自己採点・提出することで、要点を復習し、テスト勉強にも生かせるよう工夫した。全15回の講義では、第8回目に小テストを行うことで、学生がどの程度講義を理解しているのか把握した。

### 4. 教育の成果

各学期授業末に実施する授業アンケートにより学生の意見を聞き、できるだけ授業内容に反映させるようにしている。授業アンケートの自由記述では、授業資料が見やすい、授業内容もわかりやすいという感想が多い。一方で授業の進み方が早い、ボリュームが多いという声があった。多くの知識を伝えたいと思うばかりボリュームが増えてしまっている講義については、今後は重要点をしっかり伝えるということに重きをおいていきたい。毎回の課題や学期途中の小テストを組み込むことで、授業の復習ができてよかったという感想は例年見られるため、国家試験勉強のためにも今後もこの形式を続けていきたい。

「フォーラム A・B」：パワーポイントスライドを作成し、他学生の前でプレゼンテーションを行う課題を3回行った。回を重ねるごとに、発表に慣れてきている様子が見られた。

### 5. 改善への努力と今後の目標

授業速度が速いという声もいくつか見られたため、プリント記入時間を十分にとるなどして、今後改善していきたい。

### 【添付資料】

シラバス

20013「解剖学」

20018「薬理学」

20039「基礎実習」

20027「口腔外科学」

20016「口腔解剖学」

20013「組織発生学」

25030「臨床臨地実習Ⅰ」

25031「臨床臨地実習Ⅱ」

25034「ゼミナール」